

平成28年度
大阪大学大学院生命機能研究科
博士課程学生募集要項
〔5年一貫制博士課程〕

平成27年4月

大阪大学大学院生命機能研究科

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-3
電話 大阪(06)6879-4421(直通)
<http://www.fbs.osaka-u.ac.jp/>

大阪大学大学院生命機能研究科の学生受入方針等について

アドミッション・ポリシー

(1) 教育理念

20世紀の生命科学は、遺伝子工学、分子細胞生物学、生物物理学、ゲノム科学などの急速な進歩を基礎にして、遺伝子やタンパク質など生命体を構成する要素（生命素子）の物質的基盤について目覚ましい理解をもたらしてきました。しかし、生命は、単なる物質の集合によって成り立っているのではなく、それら生命素子が動的かつ有機的に統合されて成り立つシステムとして理解すべきであると考えられます。

本研究科は、生命素子がどのように統合されて生命システムが構築されるのかを明らかにすることが21世紀の生命科学に求められている大きな課題であると捉え、これからの生命科学の中心として発展すべき新しい学問領域を創成することを目標としています。そのため、医学系、工学系、理学系の学問を融合した新しい研究体系を構築し、5年一貫制博士課程の教育を通じて、大学や研究機関の最先端研究現場で高度な専門家や次世代の最先端研究を担う研究者として活躍する人材、そして社会のより広い分野でリーダーとして活躍する人材を育成します。

(2) 教育プログラム

本研究科の教育プログラムは、前期と後期を区分しない5年一貫制の博士課程です。この課程で必要な研究指導を受け、最終試験に合格すると博士学位が授与されます。優れた研究業績をあげた者については、早期に学位を取得できる道も開かれています。また、所定の要件を満たし中間審査に合格した者には修士の学位が授与されます。本研究科で取得できる修士および博士の学位は、学術、生命機能学、理学、工学の中から選択することができます。

(3) 求める学生像

本研究科では、生命科学、医学、理工学における最先端の実験研究と理論研究を融合し、新たな学問分野を開拓しようという高い意欲を持つ人を求めています。出身学部や経歴にこだわらず、博士課程で学び、考え、高い目標を見つけ、将来さまざまな分野でリーダーとなる強い意志と広い視野を持つ学生を求めています。

(4) 入試選抜の基本方針

入試選抜は、口頭試問、英語能力評価により行います。口頭試問は、専任教員や協力講座教員、そして企業人を含む招へい教員が専門知識、理解度等に関する評価を行い、英語能力は、TOEICまたはTOEFLのスコアを利用します。

※大阪大学大学院生命機能研究科案内については、ホームページで閲覧できますのでご参照ください。

<http://www.fbs.osaka-u.ac.jp/>

1. 募集人員（5年一貫制博士課程）

専攻	専攻分野	募集人員
生命機能	ナノ生体科学、細胞ネットワーク、 時空生物学、 脳神経工学、 生命理工学 個体機能学、 生体ダイナミクス、	55人

2. 選抜方法

- (1) 学力検査は、口頭試問、TOEFL又はTOEICの成績および提出書類を総合的に判定します。
なお、TOEFL又はTOEICは、「公開テスト」の成績のみを有効とします。
また、英語を主言語とする国で英語による大学教育を修了した者等については、TOEFL又はTOEICのスコア提出を免除する場合があります。
- (2) 出願時に日本以外の国に居住しており、試験当日に会場に来ることができない事情がある場合、別に試験日を設定するか、あるいはSkype等のインターネット経由での口頭試問を受けることができます。詳しくは、E-mail (seimei-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp) にてお問い合わせください。

3. 出願資格

[次の各号のいずれかに該当する者]

<ol style="list-style-type: none">(1) 大学を卒業した者および平成28年3月31日までに卒業見込みの者(2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第4項の規定により大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者および平成28年3月31日までに授与される見込みの者(3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者および平成28年3月31日までに修了見込みの者(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者および平成28年3月31日までに修了見込みの者(5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者および平成28年3月31日までに修了見込みの者(6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者および平成28年3月31日までに修了見込みの者(7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）(8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成28年3月31日までに22歳に達する者
--

4. 入学資格審査等

○出願資格の（８）に該当する者は、すべて事前に**入学資格審査**を受ける必要があり、合格者のみが出願できます。

該当者は、平成27年6月1日（月）～平成27年6月5日（金）までに下記の書類を提出してください。（受付時間：9時30分～11時30分および13時30分～16時）

郵送による提出は、下記宛「書留郵便」で封筒表に「入学資格審査申請」と朱書の上、送付してください。

ただし、平成27年6月5日（金）までの消印があり、かつ平成27年6月8日（月）午前中に到着したものまでを有効とします。

（提出書類および提出場所）※審査用に提出された書類は返却しません。

入学資格審査申請書	所定の用紙に所要事項を記入
入学資格審査履歴書	
研究実績（業績）調書	
志望理由書	
成績証明書	最終学歴の成績証明書、又はこれに準ずるもので、教育機関の長が発行したもの
審査結果通知用返信封筒	長形3号(12cm×23.5cm)の封筒に送付先を明記し、400円分の切手を貼付したもの
審査書類提出場所	〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-3 大阪大学大学院生命機能研究科事務室 電話（06）6879-4421

※入学資格審査の結果は、平成27年6月12日（金）までに郵送します。

出願の資格を認められた者は、募集要項に基づき所定の出願手続きを行ってください。

平成27年6月12日（金）までに到着しない場合は、お問い合わせください。

5. 出願期間および提出書類

入学資格審査に合格した者および出願資格（1）～（7）のいずれかに該当する者

受付期間	平成27年6月15日（月）～平成27年6月19日（金）
受付時間	9時30分～11時30分および13時30分～16時
受付場所	大阪大学大学院生命機能研究科事務室（案内図参照）
提出書類	「出願に要する書類等一覧」のとおり提出してください。 ※その他、必要に応じて関連書類の提出を求めることがあります。 ※出願書類に不備のある場合は、受理しないので注意してください。

【郵送の場合】

下記宛、所定の出願用封筒により「書留郵便」で受付期間内に届くよう送付してください。

（平成27年6月19日（金）までの消印があり、かつ平成27年6月22日（月）午前中までに到着したものまでを有効とします。）

〒565-0871

大阪府吹田市山田丘1-3 大阪大学大学院生命機能研究科大学院係
電話（06）6879-4421

6. 検定料 30,000円

検定料は、別添の所定振込用紙により、平成27年6月19日（金）までに振込んでください。

なお、振込手数料は各自で負担してください。

出願前に振込むことも可能ですが、その場合は平成27年6月12日（金）以降としてください。
(その他、検定料納付に関することについては、別掲「11. 注意事項」を参照してください。)

7. 試験日時

〔口頭試問〕

試験日	時間	科目	備考
平成27年 7月22日（水）	9:00~12:00	口頭試問	○〔試験実施場所〕 大阪大学コンベンションセンター (案内図参照) ○集合時間等は、出願受理後に送付する 「受験者心得」で指示します。
	13:00~		

〔口頭試問の内容〕

口頭試問では、受験者が（1）卒業研究として行っている研究、あるいは（2）入学してから行いたい研究について理解度とそれの基になる知識を学んでいるかを問います。

時間は、1人あたり20分（発表7分、質疑応答13分）です。

評価のポイントは、一般的なペーパーテストで答えるような網羅的な知識の量ではありません。大学院生あるいはプロの研究者として研究を行う上で必要な研究対象へのこだわりや想像力、判断力など研究者としての資質を受験者が有しているかがポイントとなります。

（1）の場合、卒業研究で行っているテーマについて、目的、重要性、実験法とその原理、応用の可能性、社会的な意義（もしその研究が面白くなければ「なぜ面白くないか」でも良い）などについて自分自身の言葉で詳細に語るようにしておいてください。

（2）の場合、希望する研究室と研究テーマに関して（1）と同様の項目と、さらに近未来に自分がやってみたい実験について、できるだけ具体的（実験法、意義、応用など）に考え、それを説明できるようにしておいてください。

（1）及び（2）いずれの場合も、内容を口頭試問調書（様式）にまとめたものを出願時に必ず提出してください。なお、必要がある場合は、口頭試問調書に図表1枚（A4版（右上に必ず氏名を記入））を添付することができます。

（注）試験当日、試験室において「出願時に提出した口頭試問調書以外の紙類」及び「電子的表示装置（パソコン、タブレット等）」の使用並びに審査員への資料等の配布は不可。

8. 学力検査の配点および合否判定基準

TOEFL又はTOEICスコア	口頭試問	合計
40	60	100

（合否判定基準）

合計点上位の者から順次合格者を決定します。ただし、英語のスコアが基準点（TOEFL：PBT487点、CBT163点、iBT57点；TOEIC：550点）に満たない場合、願書は受理しません。

9. 合格者発表

平成27年8月7日（金）10:00

大学院生命機能研究科ナノバイオロジー棟玄関で受験番号を掲示により発表するとともに、合格者には合格通知書および研究室配属に関する資料を郵送します。

なお、電話による可否の問い合わせには一切応じません。（「合格者受験番号一覧表」は、ホームページでも掲載しますが、これは、情報提供のサービスの一環として行うもので、本人あて郵送する合格通知書をもって正式な通知とします。）

おって、合格者への「入学手続案内」は、平成28年2月中旬（予定）に郵送します。

10. 入学時に必要な経費

- (1) 入学料 282,000円（平成27年度現在額）
- (2) 授業料 年額535,800円（平成27年度現在額）
 - ・入学料・授業料の納付方法等は、入学手続書類を送付する際に通知します。
 - ・入学料・授業料の額は変更する場合があります。
 - ・在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

11. 注意事項

- (1) 志願者は出願に先立ち、配属を希望するいずれかの研究室（複数可）の教員（教授・准教授）と事前に必ず連絡をとること。
- (2) 募集要項を郵便で請求するときは、宛先を明記した郵便切手250円貼付の封筒（角形2号、33cm×24cm）を同封のうえ、大阪大学大学院生命機能研究科大学院係に請求してください。
（外国に居住する場合は、返信用郵便切手の代わりに航空便書状で250g相当の国際郵券を同封してください。）
なお、送付用封筒の表には、「生命機能研究科博士課程入学願書請求」と朱書きしてください。
- (3) 出願書類に不備のある場合は受理しないことがあります。
- (4) 「検定料納入証明書」を入学願書裏面の所定の欄へ貼付していない場合は、出願を受理しません。
「振込金（兼手数料）受領書」は、本人の控えとしてしばらく保管しておいてください。
- (5) 出願を受理した後は、いかなる理由があっても出願事項の変更は認めません。また、次の場合を除き検定料の返還はしません。
（検定料の返還ができる場合）
 - (ア) 検定料を振込んだが出願しなかった。（出願書類を提出しなかった又は出願が受理されなかった場合。）
 - (イ) 検定料を誤って二重に振込んだ場合。（返還請求の方法）
 - ①返還請求の理由、②氏名（ふりがな）、③現住所、④連絡先電話番号、⑤メールアドレス（あれば）を明記した検定料返還請求願（様式は問わない）を作成し、必ず「検定料納入証明書」を添付して本研究科大学院係あて速やかに郵送してください。
- (6) 受験票は出願手続後、返信用封筒にて郵送します。平成27年7月10日（金）までに届かない場合は、必ず問い合わせてください。
- (7) 在職中の者で、在職のまま大学院に入学しようとする者は、入学手続の際に在職機関の長が発行した就学許可書（別紙様式）を提出してください。
- (8) 学内は入構制限を行っているので、自動車・バイクによる入構はできません。受験者は、電車・バス等公共の輸送機関を利用してください。
- (9) 身体に障害がある者で、受験の際に特別な配慮を必要とする者は、原則として平成27年6月5日（金）までに生命機能研究科大学院係に申し出てください。
- (10) その他、出願に際して不明な点等があれば下記まで問い合わせてください。
- (11) 不測の事態（新型インフルエンザの感染拡大等）が起こった場合、入学試験の実施を延期することもあり得ますので、ホームページで必ず確認してください。

1 2. 個人情報の取扱いについて

(1) 出願時に提出していただいた氏名、住所、その他の個人情報については、「入学者選抜（出願処理、選抜試験実施）」、「合格者発表」および「入学手続き」等の入試業務を行うために利用します。

なお、合格者については合格発表日以降、入学後に履修可能な教育プログラムについて案内するために利用することがあります。

また、入学者については、「教務関係（学籍管理、修学指導）」、「学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等）」および「授業料収納に関する業務」を行うためにも利用します。

(2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入試結果の集計・分析および入学者選抜方法の調査・研究のために利用します。

(3) 上記の業務を行うにあたり、一部の業務を外部の業者に委託する場合があります。

この場合、外部の事業者と個人情報の取扱いが適切に行われるよう契約を結んだ上で、当該事業者に対して、提出していただいた個人情報の全部または、一部を提供します。

1 3. 入試情報の開示について

入学試験における個人成績

入学試験における個人成績に関しては、請求のあった者に対し以下を公開します。

個人の総得点（TOEFL又はTOEICのスコア＋口頭試問）

合格者の最低総得点（TOEFL又はTOEICのスコア＋口頭試問）

請求期間

平成27年8月31日（月）～平成27年9月11日（金）【必着】

請求方法

別添の「入学試験個人成績開示依頼書」を用いて請求してください。

開示を希望する本人あてへ「親展」で送付します。

平成27年4月

大阪大学大学院生命機能研究科 大学院係

〒565-0871

大阪府吹田市山田丘1-3

電話（06）6879-4421（直通）

E-mail : seimei-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp

◆出願に要する書類等一覧

書 類	内 容
1. 大学院入学願書	所定の用紙に写真を貼付し、所要事項を記入してください。
2. 口頭試問調書	3ページの「口頭試問の内容」を所定の用紙に記入し提出してください。
3. 志望理由書	所定の用紙に所要事項を記入してください。
4. 成績証明書	最終学歴の成績証明書。編入学試験により認定された科目がある場合は、編入学前の成績証明書も併せて提出してください。 ※修士修了者は、学部の成績証明書も提出してください。
5. 卒業（見込）証明書	出身大学長又は学部長が発行したもの。
6. 検定料納入証明書	銀行窓口で検定料を納入し、取扱銀行収納印のあるものを願書裏面の所定欄に貼付してください。
7. 学士の学位授与証明書	大学評価・学位授与機構から学士を授与された者のみ提出してください。
8. 住民票の写し（留学生のみ）	外国人留学生の志願者は、市区町村の在留資格及び在留期間を明記した「住民票の写し（未登録者は、旅券の写し）」を提出してください。なお、法務大臣が日本での永住を認めた者については、提出する必要はありません。
9. 受験票送付用封筒	所定の封筒に宛先を明記し、400円分の切手を貼付してください。
10. 指導教員希望調査	希望する指導教員名を記入して必ず提出してください。
11. 連絡受信先シール	所要事項を記入のうえ、提出してください。
12. TOEFL、TOEICスコア	TOEFL、TOEICのスコアは、次の方法により提出してください。 【TOEICスコア提出方法】 出願時にスコアの原本を提出してください。 スコアは返却しないので、必要な方は（一財）国際ビジネスコミュニケーション協会に再発行の手続きを取ってください。 【TOEFLスコア提出方法】 受験したTOEFLスコアが、ETS(Education Testing Service)から大阪大学大学院生命機能研究科大学院係に送付されるよう、手続きをとっておいてください。大阪大学大学院生命機能研究科のコード番号等は、以下のとおりです。 TOEFL大学コード(Institution code)：7956 TOEFL研究科コード(Department code)：30 【2015年5月に受験したTOEICのスコアの結果が届いていない場合】 出願期間は、6月15日（月）～19日（金）ですが、TOEICのスコアのみ、「書留郵便」にて、封筒表に「TOEICスコア在中」と朱書きの上、 <u>7月3日（金）【厳守】</u> までに下記宛、郵送してください。 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-3 大阪大学大学院生命機能研究科大学院係 （注意） ・過去2年間（2013年6月から2015年5月）に実施されたものを有効とします。 ・団体特別受験制度（TOEFL-ITP,TOEIC-IP）のスコアは無効とします。 ・英語を主言語とする国で英語による大学教育を修了した者等については、スコアの提出を免除する場合があります。 （詳細は、出願前に本研究科大学院係に問合せのこと。）

注1：日本語又は英語以外で記載された証明書、文書等については、必ず日本語又は英語訳を添付してください。

注2：日本以外に居住している者の提出書類等の詳細については、ホームページに掲載されている募集要項（英語版）を参照してください。

生命機能研究科教員一覧

1. 専任教員・特任教員

(H27. 4. 1現在)

研究分野	担当教員名	研究内容
ナノ生体科学	教授 難波 啓一 (平成29年3月退職予定) 教授 石島 秋彦 特任教授 柳田 敏雄 准教授 橘木 修志 准教授 南野 徹	最先端のナノテクノロジーを駆使して、分子機械としての生体超分子を構成する、核酸や蛋白質のドメイン構成と構造変換、ドメイン間相互作用、細胞骨格構造、エネルギー変換などに関わる生体超分子の動態を解析します。分子間認識と相互作用の機構に基づいて、新しい機能分子、機能超分子の設計、生体超分子機械の構築を行います。
細胞ネットワーク	教授 平岡 泰 教授 高島 成二 教授 深川 竜郎 准教授 東城 博雅 准教授 片平じゅん 准教授 浅川 東彦 准教授 蒲池 雄介 准教授 堀 哲也 特任准教授 岡本 浩二	細胞内外の物理的、化学的、生物学的なシグナルに対して応答するための、細胞内シグナル伝達の分子回路ならびにその破綻から生じる病態を解析します。回路を介したシグナル伝達とシグナル調節の機構、分子回路全体の応答とその異常を、分子動態の3次元イメージング、電気生理学、システム工学等の方法を駆使して計測し、理論的に解析します。
時空生物学	教授 仲野 徹 教授 八木 健 教授 近藤 滋 教授 吉森 保 准教授 木津川尚史 准教授 渡邊 正勝 准教授 濱崎 万穂	ゲノムの安定性とダイミックな複製、細胞システムの作動による細胞分化や細胞死、細胞間シグナル伝達の構築など、時間と空間にまたがった細胞システムの動態と応答を解析する。また、細胞システムの破綻を防御する自己制御機構等を解析するとともに、それらの異常によって発生すると思われる疾患細胞の病態を理解するための原理の解明を目指します。
個体機能学	教授 月田早智子 (平成30年3月退職予定) 教授 石井 優 教授 佐々木 洋 特任教授 濱田 博司 准教授 田村 淳 准教授 白鳥 秀卓 准教授 西條 将文	細胞間の相互作用の統合による、器官形成、器官再生に至る動的過程の解明、また多階層における老化現象など、個体を舞台とした多様な生体システムの原理と動態を研究します。外界に対する生体の応答とその異常、生体を持つホメオスタシスなどの高次調整系の破綻の原因を、システムの視点を導入してその統合的理解を目指します。
脳神経工学	教授 大澤 五住 教授 藤田 一郎 教授 山本 亘彦 教授 小倉 明彦 (平成29年3月退職予定) 教授 北澤 茂 准教授 小林 康 准教授 田村 弘 准教授 白崎 竜一 准教授 吉野 恵子 准教授 中野 珠実	知覚、認識、記憶、学習などの高次脳機能の基礎となっている神経系構築と作動のメカニズムを、電気生理学、神経回路解剖学、行動心理学、非侵襲活動計測等により探求する。仮説・理論先導型の実験を行うと同時に、実験成果に基づいた脳機能の数理モデル構築を行い、脳の情報処理機構を解明するとともに、その成果の工学的、医学的応用をはかります。

研究分野	担当教員名	研究内容
生体ダイナミクス	教授 倉橋 隆 教授 井上 康志 教授 木村 真一 准教授 渡辺 純二 准教授 竹内 裕子	<p>脳や心臓などの活動に関わる生体情報のダイナミクスを、光学的、電気生理学的などの方法を駆使して計測し、システム解析手法を活用して、生体機能システムの原理を明らかにするとともに、それをヒト型ロボットの設計に適用します。また、プロテオミクス等を基礎として、複数のマイクロ要素が相互作用した結果として発現するマクロな生命現象をモデル化し、単純な法則から複雑な階層構造やそれに基づく生命機能が創発する原理を明らかにします。</p>
生命理工学 (協力講座)	教授 野島 博 教授 目加田英輔 教授 中村 春木 教授 高木 淳一 教授 中川 敦史 教授 黒田 俊一 准教授 名田 茂之 准教授 鈴木 守 准教授 岡島 俊英 准教授 岩本 亮 准教授 藪田 紀一	<p>最も高度な情報処理システムである生体が、分子レベルから個体レベルまで、どのように統合的に構築されているのかを、レベル横断的に解明する。そのためにナノテクノロジー、プロテオミクス、バイオインフォーマティクス、神経活動のネットワーク解析、遺伝子疾病学など最先端生命科学研究の連携体制をとります。</p>

2. 連携講座教員

研究分野	担当教員名	研究内容
免疫システム学 (理化学研究所 統合生命医科学研究センター)	招へい教授 谷内 一郎	免疫システムの制御機構を解明することは、免疫システムの崩壊によって発症する病気の治療法開発へとつながります。免疫システムとその制御メカニズムの解明に重点を置き、アレルギー、自己免疫疾患に対する新たな治療法の開発、ならびに細胞や組織移植を生着させるための機構解明を目指しています。同時に、免疫寛容の誘導メカニズムや免疫記憶の形成と維持等、古くから提起されながらほとんどが未解決である免疫学における最大の問題に挑戦しています。
蛋白質機能情報科学 (医薬基盤研究所)	招へい教授 水口 賢司 招へい教授 竹森 洋 招へい教授 仲 哲治 招へい准教授 Shandar Ahmad	「ゲノム科学、タンパク質科学およびバイオインフォマティクスを利用した医薬品等の開発のための研究」特に、生命機能にかかわる蛋白質群について、個々の蛋白質の機能および蛋白質群の相互作用がつくる制御ネットワークの両面から、現代の情報科学を駆使した研究を実施しています。
生命動態システム科学 (理化学研究所 生命システム研究センター)	招へい教授 升島 努 招へい教授 岡田 康志	生命機能の単位である細胞は、膨大な数の分子がネットワークを形成して相互作用する超複雑なシステムです。わずかなエネルギー消費で自律的かつ頑健に動作する生命システムの理解には、人工機械からの単純なアナロジーではない新しい概念が必要でしょう。私たちは、最先端の計測技術とスーパーコンピュータを駆使したモデル解析、そして合成生物学的手法による細胞機能の再構成という3つのアプローチの動的な融合を通じて、この新概念の創出を目指し、細胞システムの状態予測と制御を実現する「細胞まるごとモデリング」に挑戦しています。
脳情報通信融合科学 (情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター)	招へい教授 内藤 栄一 招へい教授 春野 雅彦	脳はスーパーコンピュータでも殆ど解けない難しい問題をいとも簡単に解いています。我々のグループでは計算論的神経科学の立場から、社会における意思決定や情動、運動制御等の問題に対する計算モデルの構築と、その実証のためのfMRIやMEGを用いた非侵襲脳機能イメージング、神経細胞の活動記録、遺伝子多型解析など様々なレベルの実験を行っています。このアプローチにより、現実社会における行動や脳活動の定量的な予測と制御の実現を目指しています。

3. 兼任教員

部 局 名	教 員 名	専 攻 / 部 門
理 学 研 究 科	教 授 阿久津泰弘 教 授 升方 久夫 教 授 今田 勝巳 教 授 上田 昌宏	物理学専攻 生物学専攻 高分子科学専攻 生物学専攻
医 学 系 研 究 科	教 授 下村伊一郎 教 授 吉川 秀樹 教 授 岡村 康司 教 授 山下 俊英 教 授 佐藤 宏道 准教授 七五三木聡	医学専攻 / 内科学講座 内分泌・代謝内科学 医学専攻 / 器官制御外科学講座 整形外科学 医学専攻 / 生理学講座 統合生理学 医学専攻 / 神経科学講座 分子神経科学 医学専攻 / 健康スポーツ科学講座 認知行動科学 医学専攻 / 健康スポーツ科学講座 認知行動科学
歯 学 研 究 科	教 授 野田 健司	口腔科学フロンティアセンター
薬 学 研 究 科	教 授 土井 健史	創成薬学専攻 / 生命情報解析学分野
工 学 研 究 科	教 授 河田 聡 教 授 八木 哲也 教 授 栗津 邦男	精密科学・応用物理学専攻 電気電子情報工学専攻 環境・エネルギー工学専攻
基礎工学研究科	教 授 田谷 正仁 教 授 三宅 淳	物質創成専攻 / 化学工学領域 機能創成専攻 / 生体工学領域
情報科学研究科	教 授 四方 哲也	バイオ情報工学専攻 / 共生ネットワークデザイン学講座
連合小児発達学 研 究 科	教 授 佐藤 真	小児発達学専攻 / こころの発達神経科学講座
微生物病研究所	教 授 菊谷 仁 教 授 三木 裕明 教 授 山本 雅裕	生体防御研究部門 / 分子免疫制御分野 環境応答研究部門 / 細胞制御分野 感染機構研究部門 / 感染病態分野
産業科学研究所	特任教授 川合 知二 教 授 永井 健治	所長特任研究室 第三研究部門 / 生体分子機能科学研究分野
蛋白質研究所	教 授 高尾 敏文 教 授 古川 貴久 准教授 岩崎 憲治 准教授 金城 玲	附属蛋白質解析先端研究センター 蛋白質高次機能学研究部門 附属蛋白質解析先端研究センター 附属蛋白質解析先端研究センター
サイバーメディア セ ン タ ー	教 授 菊池 誠	大規模計算科学研究部門
超高压電子顕微鏡 セ ン タ ー	教 授 光岡 薫	物質・生物応用研究分野
免疫学フロンティア ア 研 究 セ ン タ ー	教 授 審良 静男 教 授 木下タロウ 教 授 坂口 志文 特任教授 岸本 忠三 特任教授 黒崎 知博 特任教授 吉岡 芳親 特任教授 石井 健 特任准教授 Coban Cevayir	自然免疫学 糖鎖免疫学 実験免疫学 免疫機能統御学 分化制御 生体機能イメージング ワクチン学 マラリア免疫学
未 来 戦 略 機 構	特任准教授 石井浩二郎	染色体機能制御

博士課程教育リーディングプログラムについて

大阪大学には、博士課程教育リーディングプログラムと呼ばれる新しい大学院プログラムがあります。このプログラムは、研究科における従来の教育・研究活動に加えて、広く社会とのかかわりのなかで展開するコースワークによって、俯瞰力と、社会に生きる独創性を身につけることにより、国際的に、広く社会で活躍するリーダーとなる人材育成を目指しています。

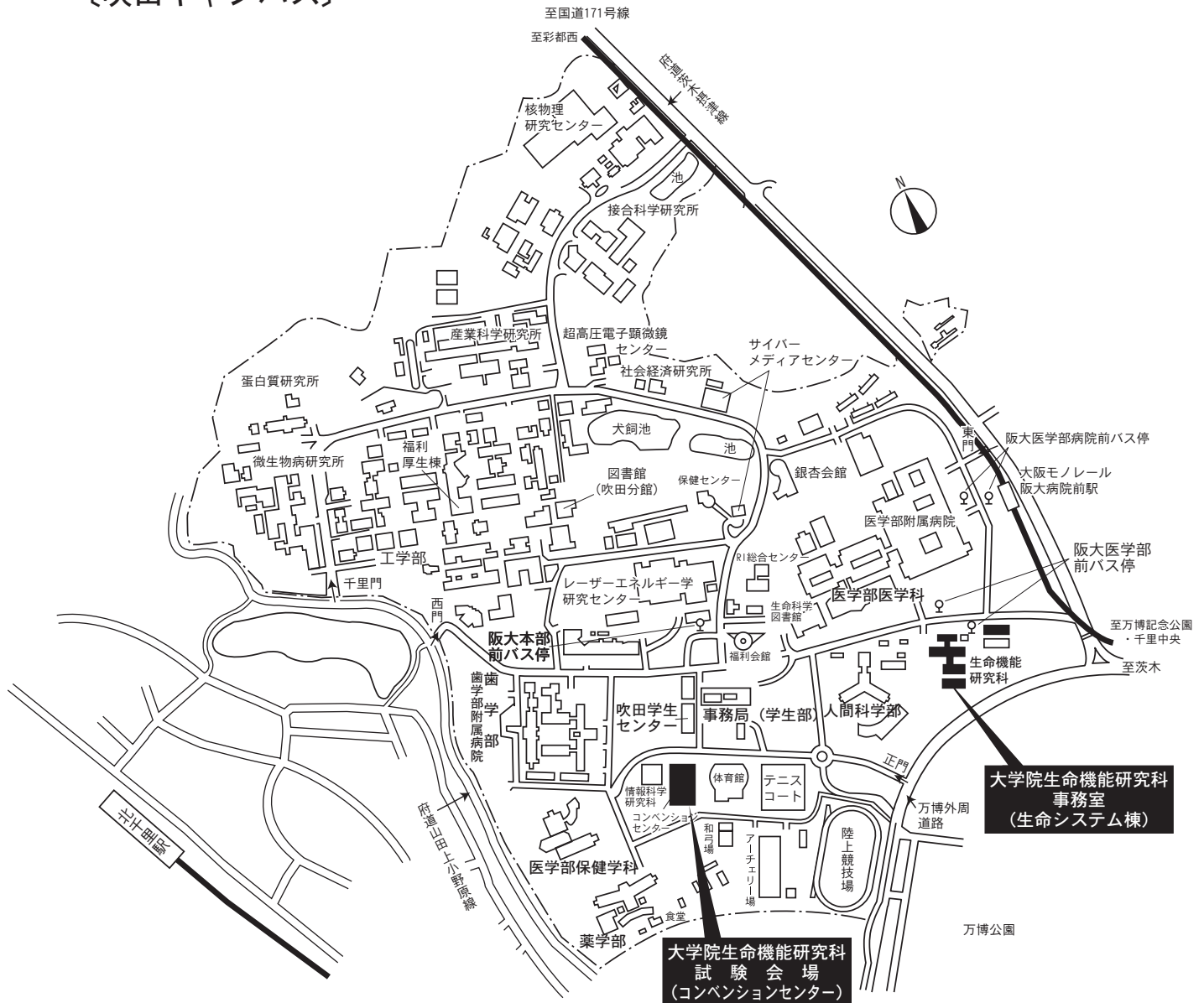
生命機能研究科博士課程の合格者は、下記の博士課程教育リーディングプログラムに応募することができます。詳細は各プログラムのホームページを参照してください。

プログラム名	対象となる研究科・専攻等	HP URL
超域イノベーション 博士課程プログラム	文学研究科（文化形態論専攻、文化表現論専攻）、人間科学研究科、法学研究科、経済学研究科、理学研究科、医学系研究科（医学専攻、保健学専攻）、歯学研究科、薬学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、言語文化研究科、国際公共政策研究科、情報科学研究科、生命機能研究科	http://www.cbi.osaka-u.ac.jp
生体統御ネットワーク医学教育 プログラム	理学研究科（生物科学専攻）、医学系研究科、歯学研究科、薬学研究科、工学研究科（生命先端工学専攻、応用化学専攻、環境・エネルギー工学専攻、ビジネスエンジニアリング専攻）、生命機能研究科	http://www.stn.osaka-u.ac.jp
ヒューマンウェア イノベーション 博士課程プログラム	情報科学研究科（情報数理学専攻、コンピュータサイエンス専攻、情報システム工学専攻、情報ネットワーク学専攻、マルチメディア工学専攻、バイオ情報工学専攻）、基礎工学研究科（機能創成専攻、システム創成専攻）、生命機能研究科	http://www.humanware.osaka-u.ac.jp

大阪大学大学院生命機能研究科 試験場への道順

学部等配置図

〔吹田キャンパス〕



○利用交通機関

- 〔電 車〕 阪急電車千里線 北千里駅（終点）下車 東へ徒歩約20分
- 〔バ ス〕 阪急バス 千里中央発「阪大本部前行」または「茨木美穂ヶ丘行」（阪急山田経由）
近鉄バス 阪急茨木市駅発「阪大本部前行」（JR茨木駅経由）
いずれも、「阪大医学部前」下車、徒歩すぐ
- 〔モノレール〕 「阪大病院前駅」下車、徒歩約10分

（注）本学では自転車等の入講を規制しています。
受験にあたっては、公共交通機関を利用してください。